

様式 A 実践英語 I (ランボー エリック)

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	実践英語 I Practical English I		単位 2
	一般・専門の別・ 学習の分野	一般・外国語	授業形態・学期	講義・後期
	対象学生	MS-1・EC-1	必修・選択の別	選択
	担当教員・所属系	Eric Rambo・総合理工学科情報システム系		
科目の 学習・ 教育内 容にか かわる 情報	基礎となる学問分野	英語・英米文学・言語学・音声学		
	専攻科学習目標との 関連	本科目は専攻科学習目標「(4) 特別研究を自主的、積極的に推進することにより、技術者として必須の問題発見能力と課題解決能力、すなわち創造的な成果を生み出すデザイン能力、研究能力を身につけるとともに、研究結果を学会などで発表し、他の研究者や技術者との交流を通じて、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につける」に相当する科目である。		
	技術者教育 プログラムとの関連	本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(F) コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の育成、F-3：技術者に必須の外国語である英語でコミュニケーションができること」である。		
	授業の概要	さまざまな場面で使用される英語の表現を学び、理工系大学生として必要なコミュニケーション能力を伸ばす。TOEIC テストの解説も行う。		
	学習目的	研究結果を学会などで発表し、他の研究者や技術者との交流を通じて、プレゼンテーション・コミュニケーション能力を身につけていること。		
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本科で修得した英語コミュニケーション能力を発展させ、身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力を身につける。</li> <li>2. 国際会議で通用するレベルのプレゼンテーションができる。</li> <li>3. 自分の到達度を測る手段として TOEIC を利用し、履修後にスコアを上げることができる。</li> </ol> <p>◎技術者や一般市民など、コミュニケーションの対象者によらず相手を理解したうえで、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ることができる。</p>		
履修上の注意	本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1 単位あたり授業時間として 15 単位時間開講するが、これ以外に 30 単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。			
履修のアドバイス	授業には積極的に参加し、課題は必ず期限内に提出すること。基礎的な英語によるコミュニケーション能力を身につけ、TOEIC テストで良いスコアを取得しておくことで就職そして就職後の昇進の際にも有利である。			
基礎科目	英語 IV (4 年)、選択英語 I (4)、英語 V (5)、選択英語 II (5)			
関連科目	技術英語講読 (専 1 年)、実践英語 II (専 2)			

授業にかかわる情報				
授業の方法		英語での発表で必要となる表現を学び、実際に発表も行っていく。同時に TOEIC のテキストを用いて、単元毎に文法の解説を含みながら、TOEIC 受験へ向けた対策も進めていく。		
授 業 計 画	開講週	授業時間内の学習内容〔項目〕 (指示事項)	授業時間外の学習内容 〔項目〕(指示事項)	
	後	16 週	▪ 年間ガイダンス, e-learning 及び TOEIC の説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ TOEIC Units 1-6 Review, Vocabulary, grammar and pronunciation; Reading comprehension</li> <li>▪ Quiz preparation, PPT-1 research and practice</li>   <li>▪ TOEIC Units 8-14 Vocabulary, grammar and pronunciation; Reading comprehension</li> <li>▪ Quiz preparation, PPT-2 research and practice</li> </ul>
	期	17 週	▪ Describing company profiles (products, sales, specifications, etc.)	
		18 週	▪ Quiz: Researching a company and product	
		19 週	▪ Making charts and graphs for PPT-1, Describing the role of profit in operations	
		20 週	▪ Quiz: PPT-1 corrections, practice	
		21 週	▪ PPT-1 を行う、ファイルを提出	
		22 週	▪ まとめと中間試験対策	
		23 週	▪ 中間試験	
		24 週	▪ Comparing your company to peer competitors	
		25 週	▪ Researching a new company and product,	
		26 週	▪ Quiz: Describing product specifications	
		27 週	▪ PPT-2 corrections, practice	
	28 週	▪ PPT-2 を行う、ファイルを提出		
	29 週	▪ まとめと期末試験対策 (期末試験)		
	30 週	▪ 後期期末試験の答案返却と試験解説		
教科書, 教材等		教科書: O'Brian, T. et al. <i>Simply 500: Acing the ToEIC. (Nan'Un-Do)</i> 参考書: 辞書 (電子辞書可) ハンドアウトを綴じるためのプラスチックフォルダーも必要。		
成績評価方法		授業での演習を 50% (口頭発表・課題提出・小テストなど), 筆記試験を 50% とし, 合計により評価する。筆記試験では持込一切不可。		
受講上のアドバイス		授業前に必ず, 予習をしてくること。語法や文法等は, 授業で紹介する TOEIC の e-learning システムを利用して学習すること。授業開始後の入室は遅刻とみなし, 2 回の遅刻で 1 単位時間の欠課とする。		

ルーブリック							
	優	良	可	不可			
評価項目 1	身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力をよく身に付いている。	身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力を身に付いている。	身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力をおおむね身に付いている。	身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力を身につけていない。			
評価項目 2	国際会議で通用するレベルのプレゼンテーションがスムーズにできる。	国際会議で通用するレベルのプレゼンテーションができる。	国際会議で通用するレベルのプレゼンテーションがなんとかできる。	国際会議で通用するレベルのプレゼンテーションができない。			
評価項目 3	TOEIC400 点レベルの語彙、文法、読解、聴解問題を解くことができる。	TOEIC400 点レベルの語彙、文法、読解、聴解問題をおおむね解くことができる。	TOEIC400 点レベルの語彙、文法、読解、聴解問題をいくらか解くことができる。	TOEIC400 点レベルの語彙、文法、読解、聴解問題を解くことができない。			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	50	30	0	0	10	10	100
基礎的能力	50	30	0	0	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	

様式 A 実践英語Ⅱ (ランボー エリック)

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	実践英語Ⅱ Practical English II		単位 2
	一般・専門の別・ 学習の分野	一般・外国語	授業形態・学期	講義・前期
	対象学生	MS-2・EC-2	必修・選択の別	選択
	担当教員・所属系	Eric Rambo・総合理工学科情報システム系		
科目の 学習・ 教育内 容にか かわる 情報	基礎となる学問分野	英語・英米文学・言語学・音声学		
	専攻科学習目標との 関連	本科目は専攻科学習目標「(4) 特別研究を自主的、積極的に推進することにより、技術者として必須の問題発見能力と課題解決能力、すなわち創造的な成果を生み出すデザイン能力、研究能力を身につけるとともに、研究結果を学会などで発表し、他の研究者や技術者との交流を通じて、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につける」に相当する科目である。		
	技術者教育 プログラムとの関連	本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(F) コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の育成、F-3：技術者に必須の外国語である英語でコミュニケーションができること」である。		
	授業の概要	プレゼンで頻用される表現やテクニックを学習しながら、自分の卒業研究について英語で発表する。TOEIC テストの準備も行う。		
	学習目的	研究結果を学会などで発表し、他の研究者や技術者との交流を通じて、プレゼンテーション・コミュニケーション能力を身につけていること。		
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本科で修得した英語コミュニケーション能力を発展させ、身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力を身につける。</li> <li>2. 国際会議で通用するレベルのプレゼンテーションができる。</li> <li>3. 自分の到達度を測る手段として TOEIC を利用し、履修後にスコアを上げることができる。</li> </ol> <p>◎技術者や一般市民など、コミュニケーションの対象者によらず相手を理解したうえで、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ることができる。</p>		
履修上の注意	本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1 単位あたり授業時間として 15 単位時間開講するが、これ以外に 30 単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。			
履修のアドバイス	授業には積極的に参加し、課題は必ず期限内に提出すること。英語力を判断する手段として TOEIC が広く認められている現状を踏まえ、TOEIC を積極的に受験する姿勢を持って欲しい。			
基礎科目	英語Ⅳ (4 年), 選択英語Ⅰ (4), 英語Ⅴ (5), 選択英語Ⅱ (5)			
関連科目	実践英語Ⅰ (専 1 年), 技術英語講読 (専 1)			

授業にかかわる情報				
授業の方法		教科書の表現を利用して自分の言いたいことを英語で表現できるようにする。同時に、TOEIC のテキストを用いて、単元毎に文法の解説も含みながら、TOEIC 受験に向けた対策も進めていく。		
授 業 計 画	開講週	授業時間内の学習内容〔項目〕 (指示事項)	授業時間外の学習内容 〔項目〕(指示事項)	
	前 期	1 週	▪ 年間ガイダンス, e-learning 及び TOEIC の説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ TOEIC Units 1-6 Vocabulary, grammar and pronunciation; Reading comprehension</li> <li>▪ Quiz preparation, PPT-1 research and practice</li>   <li>▪ TOEIC Units 8-14 Vocabulary, grammar and pronunciation; Reading comprehension</li> <li>▪ Quiz preparation, PPT-2 research and practice</li> </ul>
		2 週	▪ Describing company foreign operations (investment, training, etc.)	
		3 週	▪ Quiz; Researching a company's foreign operations	
		4 週	▪ Quiz; Making charts and graphs for PPT-1,	
		5 週	▪ PPT-1 corrections, practice	
		6 週	▪ PPT-1 を行う、ファイルを提出	
		7 週	▪ まとめと中間試験対策	
		8 週	▪ 中間試験	
		9 週	▪ Making your Curriculum Vitae (CV) in English	
		10 週	▪ Conducting a job interview in English, PPT-2 preparation: "My Seminar Research"	
		11 週	▪ Describing applied research	
		12 週	▪ Quiz; PPT-2 corrections, practice	
		13 週	▪ PPT-2 を行う、ファイルを提出	
		14 週	▪ まとめと期末試験対策 (期末試験)	
		15 週	▪ 後期期末試験の答案返却と試験解説	
教科書, 教材等		教科書 : O'Brian, T. et al. <i>Simply 500: Acing the ToEIC. (Nan'Un-Do)</i> 参考書 : 辞書 (電子辞書可) ハンドアウトを綴じるための A 4 サイズのプラスチックフォルダーも必要。		
成績評価方法		毎週の演習 (口頭発表・課題提出・小テストなど) を 50%, 筆記試験を 50% とし、合計により評価する。筆記試験では持込一切不可。		
受講上のアドバイス		授業前に必ず、予習をしてくること。e-learning システムを利用して自学自習すること。授業開始後の入室は遅刻とみなし、2 回の遅刻で 1 単位時間の欠課とする。		

ルーブリック							
	優	良	可	不可			
評価項目 1	身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力をよく身に付いている。	身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力を身に付いている。	身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力をおおむね身に付いている。	身近な事柄及び自分の専門に関する基本的な情報や考えを理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力を身につけていない。			
評価項目 2	国際会議で通用するレベルのプレゼンテーションがスムーズにできる。	国際会議で通用するレベルのプレゼンテーションができる。	国際会議で通用するレベルのプレゼンテーションがなんとかできる。	国際会議で通用するレベルのプレゼンテーションができない。			
評価項目 3	TOEIC450 点レベルの語彙, 文法, 読解, 聴解問題を解くことができる。	TOEIC450 点レベルの語彙, 文法, 読解, 聴解問題を解くことができる。	TOEIC450 点レベルの語彙, 文法, 読解, 聴解問題をいくらか解くことができる。	TOEIC450 点レベルの語彙, 文法, 読解, 聴解問題を解くことができない。			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	50	30	0	0	10	10	100
基礎的能力	50	30	0	0	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

様式A 日中比較文化論（杉山明）

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	日中比較文化論 Comparative Study on Japanese and Chinese Culture	単位	2
	一般・専門の別・ 学習の分野	一般・人文・社会	授業形態・学期	講義・後期
	対象学生	MS-1, EC-1	必修・履修・ 履修選択・選択の別	選択
	担当教員・所属	杉山明・総合理工学科情報システム系		
科目の 学習・ 容にか かわる 情報	基礎となる学問分野	中国語／東洋史／中国哲学／中国文学		
	専攻科学習標 との関連	本科目は専攻科学習目標「(4)プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力をを身につける」に相当する科目である。		
	技術者教育プログラム との関連	本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(B) 地球的視野に立った人間性の育成, B-2 : 地球上の多様な歴史観・文化・習慣の違いを理解し, 説明できること」であるが、付随的には「B-1」にも関与する。		
	授業の概要	伝統的な中国文化とともに現代中国事情を解説する。適宜, 課題図書も与える。		
	学習目的	文化的偏見を捨て, 今後さらに発展するであろう日中交流に寄与できる能力を身につける。		
	到達目標	1. 中国社会の, 日本とは違った側面を理解する。 ◎自国の文化を理解し誇りを持つとともに, 異文化を許容し尊重する人間性を涵養する。		
履修上の注意	本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが, これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。			
履修のアドバイス	学士の認定を受けるためには必要な講座なので, その点をよく理解して受講すること。			
基礎科目	世界史(1年), 政治経済(2), 国際文化論(4), 人間と歴史(5)			
関連科目	国際コミュニケーション演習(専1年), 社会科学概論(専2)			

授業にかかわる情報		
授業の方法		15週を後期に集中して行う。1回の授業の中で、中国文化に関連するテーマひとつを講義する。試験は中間考査と期末考査の2回実施する。レポートも二本課す予定。
授業計画	開講週	内容〔項目〕(指示事項)
	前期 1週	
後期	16週 ・なぜ中国を学ぶか 17週 地理と言語, 民族等 18週 戦後中国の歴史と文化大革命 19週 国家意識と一族主義 20週 中華思想 儒家と道家 21週 性悪説と性善説 歴史観 22週 中間考査 23週 中間考査の返却と解説 24週 一人っ子政策と高齢化問題 25週 格差社会 26週 台湾と香港 27週 環境破壊 28週 偽ブランド 29週 中国企業の現在 期末試験 30週 期末試験の返却と解説	・参考文献の購読(具体的な書名は, 授業を通じて適宜指示)  ・課題レポートの作成
教科書, 教材等		教科書: 特になし プリント配付 参考書: 中国語学習&異文化理解ハンドブック(アルク)
成績評価方法		2回の試験の結果が70%, 課題レポート2本で30%の比重とする。課題レポートは, 中国語および中国社会をどれだけ理解し, かつ自身とは異なった価値観をどの程度許容する視点を身につけることができたかが評価の基準となる。
受講上のアドバイス		平素から中国に関係する新聞やテレビ等の報道やニュースに関心を払うことが大切である。遅刻時間が20分を過ぎれば欠課扱いとする。



ルーブリック							
	優		良		可		不可
評価項目 1	自分たちと異なる文化を理解，許容しそれとの協力，共生の心を持つことが出来る。		自分たちと異なる文化を理解，許容しすることが出来る。		自分たちと異なる文化を理解，許容しすることが出来る。		自分たちと異なる文化を理解，許容することができない。
評価項目 2	隣国中国の文化，社会事情を理解し，日本及び日本人の採るべき思考，行動を考えることが出来る。		日本との比較を通じて，隣国中国の文化，社会事情を理解することが出来る。		日本との比較を通じて，隣国中国の文化，社会事情を理解することが出来る。		隣国中国の文化，社会事情を理解することが出来ない。
評価項目 3	自己の主張，考えを，情熱と説得力を持って記述することが出来る。		自己の主張，考えを，情熱を持って記述することが出来る。		自己の主張，考えを，情熱を持って記述することが出来る。		自己の主張，考えを，うまく記述することが出来ない。
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

様式 A 社会科学概論 (角谷)

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	社会科学概論 social science		単位 2
	一般・専門の別・ 学習の分野	一般 人文・社会	授業形態・学期	講義・後期
	対象学生	MS-2, EC-2	必修・選択の別	選択
	担当教員・所属	角谷 英則・総合理工学科電気電子システム系		
科目の 学習・ 教育内 容にか かわる 情報	基礎となる学問分野	史学・ジェンダー学・社会学・言語学・障害学		
	専攻科学習目標との 関連	本科目は専攻科学習目標「(4)特別研究を自主的、積極的に推進することにより、技術者として必須の問題発見能力と課題解決能力、すなわち創造的な成果を生み出すデザイン能力、研究能力を身につけるとともに、研究結果を学会などで発表し、他の研究者や技術者との交流を通じて、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につける。」に相当する科目である。		
	技術者教育 プログラムとの関連	本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(B)地球の視野に立った人間性の育成 B-2：地球上の多様な歴史観・文化・習慣の違いを理解し、説明できること」である。		
	授業の概要	この科目は、近代以降に生み出された社会科学の古典やよく知られた諸学説に関する基本的な知識を参照・学習しながら、現代社会の具体的な諸問題について考えることによって、社会科学的なものの見方、思考方法を身につけることを目的とする。		
	学習目的	専門とは異なる分野における思考方法をまなぶことによって、人間性涵養の背景となるような教養を身につけることを学習目的とする。		
	到達目標	社会科学的な視点から人間、社会、文化について多面的に理解し、国際社会の一員として社会的諸問題の解決に向けて主体的に貢献する自覚と素養を培う。人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追究しながら技術者として社会に貢献する自覚と素養を培う。		
履修上の注意	本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが、これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。			
履修のアドバイス	とくになし			
基礎科目	世界史(1年)、政治経済(2)、日本史(3)、「人間と文化」(4)、「人間と社会」(5)			
関連科目	なし			

授業にかかわる情報			
授業の方法		毎週の当番報告者を中心として講義をおこないながら、受講者の意見を求め、そこからさらに議論を発展させていく方法で進める	
授業計画	開講週	授業時間内の学習内容〔項目〕 (指示事項)	授業時間外の学習内容〔項目〕 (指示事項)
	後期	1週 ● 導入 「社会科学」とはなにか。 2週 ● 社会科学的思想について 3週 ● 演習 4週 ● 演習 5週 ● 演習 6週 ● 演習 7週 ● 演習 8週 ● 演習 9週 ● 演習 10週 ● 演習 11週 ● 演習 12週 ● 演習 13週 ● 演習 14週 ● 演習 15週 ● 演習	基本的に講義内容の復習をおこなう。  レポート/プレゼンテーション準備 レポート/プレゼンテーション準備 レポート/プレゼンテーション準備 レポート/プレゼンテーション準備 レポート/プレゼンテーション準備 レポート/プレゼンテーション準備 レポート/プレゼンテーション準備 レポート/プレゼンテーション準備 レポート/プレゼンテーション準備 レポート/プレゼンテーション準備 レポート/プレゼンテーション準備 レポート/プレゼンテーション準備 レポート/プレゼンテーション準備 レポート/プレゼンテーション準備
教科書, 教材等		佐野直子『社会言語学のまなざし』三元社。また、各自の選択テーマによって、購入すべき文献を指示することがある。	
成績評価方法		提出課題 (100%) もしくは口頭報告 (100%)。十分な参加が評価対象となる必要条件である。課題は課題提示の翌週の提出することとし、授業時間外の学習評価はその内容によってなされる。	
受講上のアドバイス		この科目の受講者には、履修のために相当の学習意欲・知的好奇心・積極性が要求される。また、講義中の積極的な発言が歓迎される。遅刻 (授業開始におくられること、) に対するペナルティはもうけないが、受講者の自律性につよく期待する。	

ループリック
--------

	優	良	可	不可			
評価項目 1	十分に授業に参加すること	2/3 以上の授業に参加すること	2/3 以上の授業に参加すること	10 回をこえて欠席すること			
評価項目 2	指示に十分に合ったレポートを提出する／または口頭報告をおこなうこと	指示にある程度合ったレポートを提出する／または口頭報告をおこなうこと	指示に最低限合ったレポートを提出する／または口頭報告をおこなうこと	指示に合ったレポートを提出しない／または口頭報告をおこなわないこと			
評価項目 3	なし	なし	なし	なし			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	0	100%	0	0	100%	0	100%
基礎的能力	0	100%	0	0	100%	0	100%
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

様式 A 現代哲学（稲田）

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	現代哲学 Modern Philosophy		単位 2
	一般・専門の別・ 学習の分野	一般・人文・社会	授業形態・学期	講義・前期
	対象学生	MS-2, EC-2	必修・選択の別	選択
	担当教員・所属系	稲田知己・情報システム系		
科目の 学習・ 教育内 容にか かわる 情報	基礎となる学問分野	哲学／倫理学		
	専攻科学習教育目標 との関連	本科目は専攻科学習目標「(5)工学倫理の学習や技術者倫理に関する特別講義を受講するとともに、広く技術者倫理の理解ができる」に相当する科目である。		
	技術者教育プログラ ムとの関連	本科目が主体とする学習・教育到達目標は、「(G) 技術者倫理の理解、G-1：倫理的・経済的および安全上の考察に関する理解を深め、技術者として社会に対する責任を自覚し、説明できること」であるが、付随的には「B-1」にも関与する。		
	授業の概要	現代の工学技術者・工学研究者にとって倫理教育は不可欠の教養となっている。今年度の「現代哲学」では、哲学・倫理学の根本問題を取り上げることによって、科学技術文明について考察を深めたい。		
	学習目的	この授業は、生命倫理をはじめとした現代哲学の諸問題を系統的に学習することによって、技術者として社会に対する責任を自覚する能力を身につけることを目標としている。		
	到達目標	1. 哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。 2. 現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。 ◎人間性、教養、モラルなど、社会的・地球的観点から物事を考えることができる。		
履修上の注意	本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが、これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。			
履修のアドバイス	レポートが必ず課されるので、平素から新聞等を読む習慣をつけて、自分なりの問題関心をもつこと。			
基礎科目	倫理（全系1年）、工業倫理学（全系5）			
関連科目	工学倫理（専1年）			

授業にかかわる情報			
授業の方法		前期開講。簡便な哲学の教科書を使用するが、受講生自身と議論することによって授業をすすめていく。課題提出を求めて授業時間外での追加学習を求める。	
授業計画	開講週	授業時間内の学習内容〔項目〕 (指示事項)	授業時間外の学習内容〔項目〕 (指示事項)
	前期	1 週 ● ガイダンス 2 週 ● 教科書第 1 章「自由」 3 週 ● 同上 4 週 ● 教科書第 2 章「歴史」 5 週 ● 同上 6 週 ● 教科書第 3 章「個と普遍」 7 週 ● 教科書第 4 章「科学の勃興」 8 週 ● 教科書第 5 章「客観性」 9 週 ● 同上 10 週 ● 教科書第 6 章「弁証法」 11 週 ● 教科書第 7 章「実存」 12 週 ● 同上 13 週 ● 教科書第 8 章「ニヒリズム」 14 週 ● 同上 15 週 ● 報告書／レポート作成の指示	授業中の発表 あるいは報告書を書くための指示  レポートを書くための指示
教科書, 教材等		教科書：川原栄峰『哲学入門以前』（南窓社） 参考書：特になし	
成績評価方法		1 回のレポート（50%）。授業中の発表あるいは授業内容を確認する報告書（50%）。 再試験は実施しない。	
受講上のアドバイス		平常点・出席点は成績評価で考慮しないが、必ず授業時間数の 2 / 3 は出席すること。 遅刻については、授業に大幅に遅れてやってきた学生は欠課とするが、何回かの遅刻を 1 欠課とするという措置はとらない。	

ルーブリック							
	優	良	可	不可			
評価項目 1	現代哲学の歴史的背景や重要性を理解し、その詳細を発展的に説明できる。	現代哲学の歴史的背景や重要性を理解し、その事項を詳細かつ基本的に説明できる。	現代哲学の歴史的背景や重要性を理解し、その基本事項を説明できる。	現代哲学の歴史的背景や重要性を理解し、その基本事項を説明できない。			
評価項目 2	現代哲学が問題とする諸事項や諸概念を理解し、詳細かつ発展的に説明できる。	現代哲学が問題とする諸事項や諸概念を理解し、その事項を詳細かつ基本的に説明できる。	現代哲学の歴史的背景や重要性を理解し、その基本事項を説明できる。	現代哲学が問題とする諸事項や諸概念を理解し、基本事項を説明できない。			
評価項目 3	公共心を持ち、他人や自分の独創性について詳細かつ発展的に表現することができる。	公共心を持ち、他人や自分の独創性について詳細かつ基本的に表現することができる。	公共心を持ち、他人や自分の独創性について基本的に表現することができる。	公共心を持ち、他人や自分の独創性について基本的に表現できない。			
評価割合							
	試験	報告	相互評価	態度	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	50	0	0	50	0	100
基礎的能力	0	40	0	0	30	0	70
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	10	0	0	20	0	30